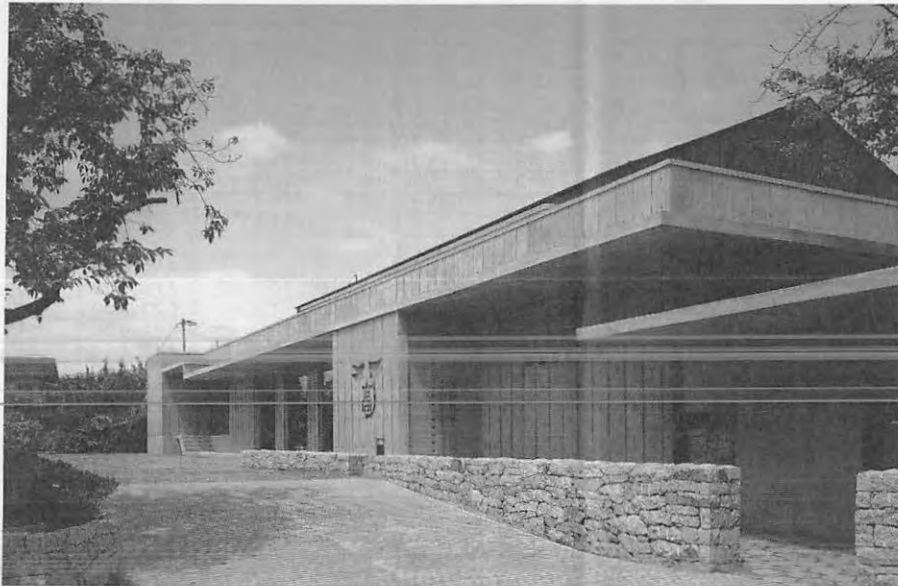


深志同窓会々報

題名 中山久四郎
(松中10回 文学博士)
発行所 松本市蟻ヶ崎3-3-1
深志教育会館内
深志同窓会
発行人 中嶋嶺雄
編集 刊行委員会
印刷 電算印刷株式会社
http://www.mcci.or.jp/www/fukashi/

新たな校史刻む 深志教育会館が完成



深志教育会館

盛大に130周年記念式典

文化事業多彩に 同窓会一丸の成果

平成十八年十月七日、松本深志高等学校創立百三十周年記念式典が盛大に開催されました。

式典では深志高校の歴史を振り返る映像「深志百三十年のあゆみ」が上映され、祝賀会は盛り上げました。

祝賀会は参加見込みを遥かに超える千人以上の同窓生が集い、講堂と小体育館の二カ所に分かれて楽しく行われました。在校生のデザインによるシンボルマークを染め抜いた記念品の手拭いも好評でした。

今回の周年事業の柱は深志教育会館の建設でした。伝統の尚志社跡に建設された深志教育会館は、同窓生の交流の場、後輩たちの学習の場として計画されました。柳澤孝彦氏（深志5回）の斬新なデザインは、私たち同窓生の交流の基地に相応しいシンボルとして、同窓会活動を支えています。

刊行事業では、会員名簿「深志人物誌Ⅲ」を発行しました。中等教育資料の展示、母校の歩みを取めたDVDの製作も大きな成果をあげ、校史を彩ることとなりました。

文化事業も多彩に行われ

ました。

美術展「近代日本洋画の志深く」は、同年十一月三日から翌年一月八日まで松本市美術館で開催されました。西洋絵画を学び始めた先人たちから、近代日本洋画を築いた作家たちの作品が展示されました。

第一回松本映画祭と銘打った映画祭は、平成十八年九月三十日から十月九日まで、同窓生の熊井啓、降旗康男両監督の作品を中心に、松本地方出身監督の作品、青春の思い出の映画など十作品を上映しました。

このように多彩な事業が成功裡に行えたのも、ひとえに同窓生が一丸となって取り組んだ成果だと思えます。



130周年記念式典

す。募金事業委員会をはじめ、実行委員の皆様本当にありがとうございました。なお「日本の黒い夏―冤罪―」の上映に際してトークショーに臨まれた熊井監督は、平成十九年五月二十三日急逝されました。ご冥福をお祈りします。

新役員

深志同窓会の総会が、平成二十年九月二十七日に教育会館で開かれ、任期満了に伴う役員改選で、新役員の名簿が決められました。

会長 中嶋嶺雄
(深志7回)新任

副会長 相澤英伸
(深志4回)新任

飯沼博則
(深志16回)

内川小百合
(深志21回)新任

五味千万人
(教頭)

参 与 藤井彰
(学校事務長)

監 事 前澤哲司
(深志5回)

角野早苗
(定時6回)

横沢正恵
(深志9回)

深志同窓会の新しい地平

同窓会長 中嶋 嶺雄



深志同窓会会長 中嶋嶺雄

深志同窓会は、会員の皆様のご協力と穂苅甲子男前会長を始めとするこれまでの役員の方々のご貢献によって、母校創立百三十周年記念の大事業を完遂し、その一環としての深志教育会館も見事に竣工、現在有効に活用されています。

このような成果の上に、昨年九月二十七日の本会総会では、はからずも私が新会長を引き受けることになりました。大変光栄な

とではありますが、同時に重い責任を感じております。会員の皆様には、どうぞよろしくお願いいたします。百三十有余年もの永い歴史と伝統を有する長野県松本深志高等学校は、わが国の代表的な学校であり、多くの優れた先輩後輩を擁して確固たる位置を定めてきております。その輝かしい歴史と伝統を受け継ぐべきことの一方、今日の時代の動きはまことに激しく、わが国の在り方や存在感が、とくにこれからのグローバル化の時代に向けて厳しく問われつつあります。

そうした時代はまた、これまで以上の知識基盤社会(Knowledge based society)でもありますが、優れた知識集団としての深志同窓会がより大きな意味をもつためにも、同窓会が親睦と旧懐の場であるという性格に加えて、深志同窓会らしいユニークな特色を打ち出してゆきたいと考えております。

百三十周年では志音会が松本のハーモニーホールでオーケストラとコーラス約三百人によるモーツァルトの「戴冠ミサ」を上演しましたが、秋田から駆けつけた七十歳過ぎの私の隣でヴァイオリンを弾いた現役生は十七歳、こんな催しのできる高校は全国的にも例がないと思えます。

深志同窓会の新しい地平は、どのあたりに求められるのか、是非皆様のお知恵をお貸し下さい。